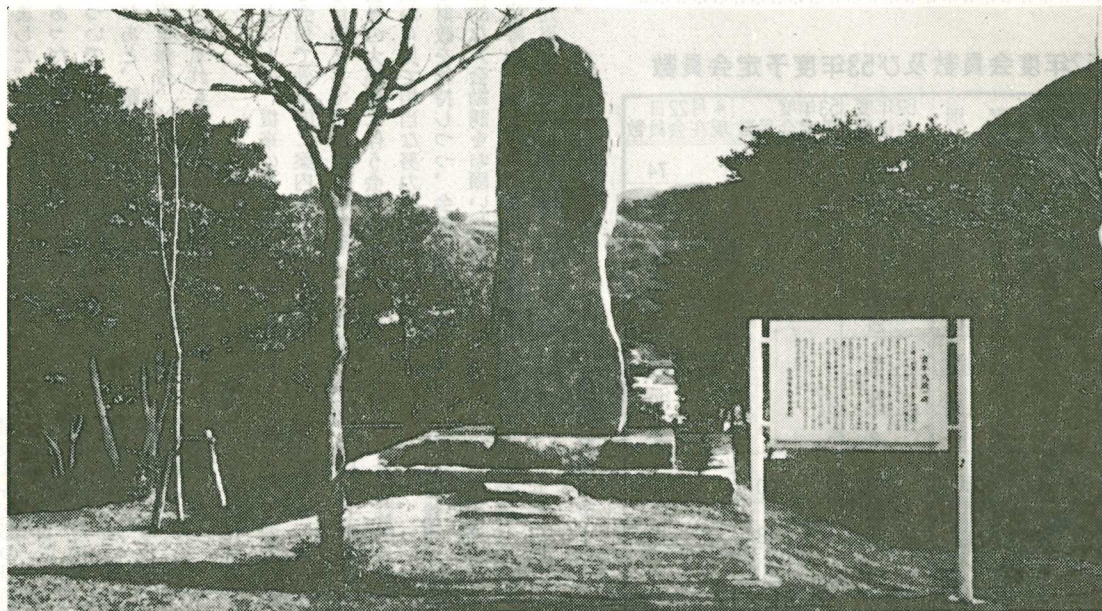


北九州市の文化財を守る会

会報

No.23 53. 4. 15

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389
印刷 博文堂印刷所
北九州市小倉北区長浜町2番22号
電話 511-1011



宮本武蔵の碑

小倉北区赤坂四丁目手向山公園内

石碑は語りかける

イナカの道をあると、しばしば路傍に石碑を見かける。見上げるような巨大な石であったり、盛り土の上にポツンと立っているだけのささやかな碑であったりする。石碑の意味するものはさまざまだが、その多くは顕彰碑のようである。
それらについてはナニナニ先生彰徳碑と彫ってあるだけで、その先生(またはナニナニ翁)がどんなわけで顕彰されるのかわからない場合が多い。時間の経過が建設当時の由緒をぼやけさせてしまうのだが、すくなくとも当初においては、たしかにその付近のひとびとに追慕されていた人物にちがいないと思われる。いわば、村の、あるいはその地域の、誇るべき文化財である。とすれば、現在では意味がわからなくなっている石碑の由緒を調査してそれを正しく伝えることこそ、私たち後人のつとめであり、文化財を守ることとなるのではあるまいかと考えるのである。

ところで、石碑もまた歴史を語る文化財である、という意見について、ひとつの例がある。もうずいぶん以前のことだが、小倉南区の首根のあたりをあるいているときに新田碑というのに出会った。碑の表面は大文字で「新田碑」と彫ってあるだけだったが、裏面には、古く海浜を埋め立てて新しい土地を造成した事蹟が刻んであり、それは実に、かの小笠原騒動で悪役とされている寛政時代の小倉藩の上席家老犬甘兵衛知寛(一八〇三没)の首根新田造成に関する功績を讃えた勲功碑であった。のちに、中谷の山奥の石牢に押しこめられて絶食死をとげた人物も、領民の一部からは永代不朽の石碑を建設されるほど讃仰されていたことがわかる。無言の石は後世に向ってそのことを語っているのである。

もうひとつ。手向山の武蔵碑の重要さは、それがあまりにも有名であるために、かえって見落されるところという皮肉な恰好になっている。現今の宮本武蔵の伝記は『二天記』が原典のように思われているが、これは武蔵没後百年ほど経ってあらわされたものである。しかるに手向山頂上の武蔵碑は、剣豪の没した正保二年(一六四五)からわずか八年後の承応二年(一六五三)だったかに、かれの養子で小倉藩の家老だった宮本伊織が養父の生涯の事蹟を刻明に刻んで建設したもので、やや称揚にすぎているかとも思われるが、伝記としては第一等の資料といえるべきであろう。
石碑は、路傍から、藪かげから、雑草の中から、声のない声で語りかけてくる。私たちはその話に耳を傾け、さらに後代へと伝えてゆきたいものである。(劉寒吉)

昭和52年度の会のあゆみ

- 5月14日 役員会、総会開催
映画「宿場町」「煙の恐ろしさ」鑑賞
6月1日 会報No.19発行(小倉南支部)
6月19日 第13回バスによる文化財めぐり(防府市)
9月1日 会報No.20発行(小倉北支部)
会員に歴史博物館の入場券配布
9月25日 第14回バスによる文化財めぐり(長門市)
11月1~7日 文化財保護強調週間行事
文化財映画鑑賞会の実施
大里中部公民館(11.1)
八幡西市民センター(11.2)
天然記念物平尾台の清掃(11.6)
12月1日 会報No.21発行(門司支部)
会員名簿の作成、配布
1月26日 文化財防火デー行事参加
3月1日 会報No.22発行(戸畑支部)

バスによる文化財めぐり

第十五回バスによる文化財めぐりは「城下町中津」を訪ねることになりました。当日のご説明には中津市文化財調査委員会委員の嶋通夫先生を予定しています。
なお、当日地元「北原人形芝居保存会」のご厚意により、大分県指定「北原人形芝居」が特別に上演されることになっております。参加ご希望の方はお早めに申込み下さい。
日時 五月二十八日(日)雨天決行
参加資格 本会会員
参加料 一人につき三千五百円
募集人員 四十五人(先着順)
締切日 五月二十五日(木)
申込方法 参加料を添え直接事務局まで
集合場所 若松区役所前 午前七時四十五分
出発時間 小倉駅北口前 午前八時
昼食時間 中津城会館で四十分。軽い食事です。
帰路 小倉駅着午後六時三十分予定。

見学先 (コース順)

福沢諭吉旧居 中津藩出身の啓蒙思想家福沢諭吉が少年時代に育った家。昭和四十六年度の史跡に指定。諭吉誕生一四〇周年を記念して建設された福沢記念館には、遺品や遺墨を多く展示。
中津城 中津城内(昭和三十九年再建)には、甲冑や刀剣、奥平藩関係資料などを展示。
自性寺 中津奥平藩の菩提寺。当寺の書院である大雅堂に保存されている「池大雅筆障壁画」は昭和三十五年県の有形文化財指定。池大雅の書画が一堂に見られることは全国でも珍らしく貴重である。
三角池と瀧神社 瀧神社は宇佐神宮の元宮として有名で、神殿は細川忠興(一六二三)が、本殿楼門は小笠原長次(一六三三)が再建寄進したもので朱塗りの華麗な建物である。三角池は御神霊を祀る内宮で、古く宇佐宮行幸会の御霊代、鷹刈りの神事が行われていた所。昭和五十一年県の史跡に指定。
北原人形芝居 鎌倉時代に始まりと伝えられ、その歴史は文楽より古く、ハサミづかいという文楽や淡路の人形芝居にない独特の技法を創案している。毎年二月四日、北原の氏神・田原神社で催される最大の行事「万年願」で奉納されている。昭和三十二年県の無形民俗文化財に指定。

おわび

前回配布の会報第二十二号中、間違いがありましたので、次のように訂正させていただきます。
ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。
一頁巻頭言本文中

事務局だより

◇従来五月に開催していた総会を今年度から四月に変更し、去る四月八日無事終了しました。
◇会報第二十三号ができあがりましたのでお届けします。今回は事務局の担当です。
◇次回の担当は八幡西支部で、発行は七月十五日の予定です。
◇リーフレット「小倉の森嶋外遺跡」を同封します。ご利用下さい。
◇会報充実のため、会員の皆さんの積極的な投稿をお願いします。原稿(本会専用の用紙あり)は担当支部長か事務局へお寄せ下さい。
◇今年度会費(据置)を事務局に持参することが困難な方は、同封の振込用紙をご利用のうえお早めに納入下さい。(年間会費)
一般会員千円、賛助一口 一万円
学校関係千円、一般団体 三千円

書籍案内

十九行目、指定名称の「夜宮の大柱化木」を「夜宮の大柱化木」に二十行目、指定年月日の昭和二十二年二月二十二日に昭和三十二年二月二十二日に

催物案内

北九州市ファミリー劇場の公演

Table with columns: 日時, 会場, 開演, 入場料, 内容, 出演. Details of family theater performances including dates, venues, and ticket prices.

新 会 員

Table of new members with columns for Name (氏名), Postal Code (郵便番号), District (区名欄), Address (住所), and Phone Number (電話).

住所・電話変更

Table of address and phone number changes with columns for Name (氏名), Postal Code (郵便番号), District (区名欄), Address (住所), and Phone Number (電話).

昭和53年度予算

Budget table for 1978 with columns for Income (収入) and Expenses (支出), including sub-columns for Item (費目), Amount (金額), and Details (明細).

昭和53年度総会を開催

去る四月八日(土)午後二時三十分から市立視聴覚センター研修室で、昭和五十三年度総会が開かれました。

昭和53年度事業計画

◇会報の発行(年4回の発行、編集は各支部の担当)

先ず、局長の開会あいさつがあったあと、局長より座長として加瀬副会長の指名がありました。ついで、加瀬座長が会則第八條及び第九條に基づく補欠役員を紹介したあと、議事に入りました。

◇バスによる文化財めぐり

今年度事業計画で特に注目すべきことは、従来の会報の発行日を変更したこと。これは諸事業を会報で効果的に案内することによって、会の充実、発展を図ることを目的として行ったものです。

◇文化財防火デー行事

役員紹介

このたび理事の転居、死去に伴い、次のかたがたが後任として新しく選ばれました。

- List of officers including 若松区 柴田 六郎, 八幡東区 本松 馨, 八幡西区 政時 義明, etc.

52年度会員数及び53年度予定会員数

Table comparing membership numbers for 52nd and 53rd fiscal years across various categories like District (区別), Type (種別), and Status (種別).

昭和52年度決算報告

Financial report table for 1977 with columns for Income (収入) and Expenses (支出), including sub-columns for Item (費目), Amount (金額), and Details (明細).

《収入・支出差引残金262,244円は翌年度に繰越し》

新指定文化財の紹介

市は去る三月二十二日、昭和三十二年度市指定文化財として、次の三件を新たに指定しました。

これで市内の指定文化財は国指定四件、県指定四十五件、市指定二十七件のあわせて七十六件となりました。

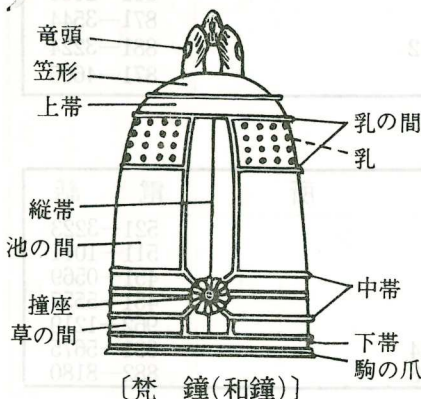
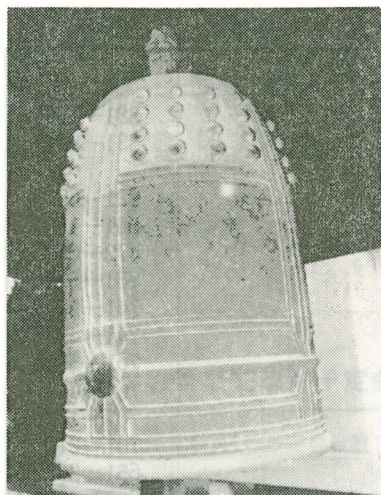
有形文化財(工芸品)

梵鐘

所在地 若松区大字二島
所有者 徳雲寺

形状 総高 一一・二センチ
身高 八九・四センチ
龍頭高 二二・八センチ
口径 六〇・五センチ
口辺厚 六・〇センチ

銅製。やや丈長で笠形よりゆるい曲線が広がり、中帯上辺より



〔梵鐘(和鐘)〕

垂直に下がる。乳(ち)の間は四区で各区とも四段四列に乳(ち)を配し、その下の池の間(いけのま)四区のうち二区に銘(第一区五十七文字、第二区五十四文字)が浅く刻まれている。梵鐘のはたは全体に錆荒れが目立つ。

龍頭(りゅうず)は、比較的高い。中央に突出している宝珠の蓮華座(れんげざ)の下部左右には空隙があり、龍頭の口が大きく開いて、笠形上部から出ている棒を咬んでいるような形となっており、その上唇は舌状にたれさがっている。

鐘銘によると、この鐘は永享二年(一四三〇)十一月、麻生家見(麻生氏第十一代)が鑄工の道仙に鑄造させ、二島庄、聯芳山総善禪寺に寄進したとある。現在総善寺は存在せず、寺歴、跡地など全く不明。鑄工の道仙も経歴等不詳であるが、前述の龍頭の作風が、小倉南区井手浦・西円寺の梵鐘(県指定文化財、至徳二年(一三八五)小倉大工、安宗作)、長崎県大宝寺の梵鐘(県指定文化財、応安八年(一三七五年)豊前大工藤原頭宗作)等と同手法であり、このことから道仙も小倉鑄物師の系統の鑄工と推定される。

伝えられるところによると、この梵鐘は宝永二年(一七〇五)日吉神社に移り、のち明治維新のころ現在地に移された。

指定理由

市内の梵鐘で中世以前の製作になるものは数少なく、しかも小倉の鑄物師と同一手法をもつ鑄工によって作られた貴重なものでありかつ中世における北九州の豪族、麻生氏の寄進という歴史的由緒のある重要な資料である。

無形民俗文化財

大積神楽

所在地 門司区大字大積
保存団体 大積神楽保存会

大積・天疫神社秋の祭礼(十月十日夜)に奉納される神楽。成立年代は不詳だが、藩政時代盛んに行われていた社家神楽(神職によって行われる神楽)の後身。明治以降、地元大積の農民がこれを引き継ぎ現在に至っている。

神楽の流派は、豊前地方に広く分布する豊前岩戸神楽で、芸態は築城郡系(赤旗神楽系)である。芸態の特徴は総体的に動きが早く、所作が荒々しいことである。かつては式神楽十二番、特殊神楽十一番の三十三番(神楽本来の形式)が行われていたが、現在では次の式神楽七番が舞われている。

米撒き(こめまき) 一人舞

御福(みふく) 四人舞

御鬼(みきき) 二人舞

岩戸神楽 五人舞

折神楽(おりかぐら) 四人舞

地割(じわり) 六人舞

四方鬼(しほうき) 四人舞

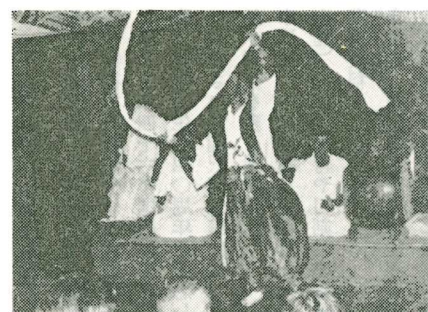
なお、湯立神楽に使用されていた五徳(ごとく)の脚部三本が残されており、天保十五年(一八四四)奉納の銘が刻まれている。

指定理由

明治初年の復活以来、現在に至るまで豊前岩戸神楽の伝統を保持



大積神楽(御鬼の舞)



合馬神楽(田鋤の舞)

していることは貴重であり、かつ市内で唯一の築城郡系神楽の芸態伝承は北九州市における芸能史上重要である。

無形民俗文化財

合馬神楽

所在地 小倉南区大字合馬
保存団体 合馬神楽保存会

合馬・天疫神社秋の祭礼(九月十五日夜)に奉納される神楽。里説によると享保年間、村に飢饉悪疫が続いた折、村人が他所から神楽を招き、天疫神社に奉納したのが始まりという。しかし、この神楽も藩政時代は社家神楽であったと推察される。明治末年、地元農民がこれを復活し現在に至っている。

神楽の流派は豊前岩戸神楽、芸

指定理由

明治末年の復活以来現在に至るまで、豊前岩戸神楽の伝統を維持していることは貴重であり、かつ北九州市における芸能史上重要である。

態は京都郡系である。芸態の特徴は流麗なことである。

昭和四十年までは毎年行われていたが、以後は隔年となっている現在、次の十五番を主に演じている。

- 米撒き 一人舞、手草 二人舞
- 奉幣 一人舞、御福 四人舞
- 五行 六人舞、田鋤 一人舞
- 折敷 一人舞、三本剣 一人舞
- 四つ鬼 四人舞、花神楽 四人舞
- 御鬼 二人舞、網御鬼 二人舞
- 鯛釣り 一人舞、天岩戸開き 六人舞、湯立 四人舞

【参考資料】

① 梵鐘銘

梵鐘	所蔵者	備考
沙弥円覚	浄智寺	鎌倉市山ノ内
宗貞	心光院	島根県太田市鳥井
沙弥宗仁	誓願寺	滋賀県東浅井町内保
顯宗	大宝寺	長崎県
善照	中領八幡	山口県吉敷郡小郡町
安宗	西円寺	北九州市小倉南区井手浦
	岩亀八幡	田川市伊加里
	若宮神社	下関市
沙弥浄音	市中神社	広島県志和町堀市
沙弥道□	頓野八幡	直方市上頓町
道仙	徳雲寺	北九州市若松区二島

② 小倉大工名(推定)と製作梵鐘

梵鐘	所蔵者	備考
重器圓成	新有奇聲	福岡県
音鳴動普賢	群生	福岡県
辰	夕一也	福岡県
屋夜一也	定睡自醒	福岡県
心悟道	醒裂	福岡県

「日本の梵鐘」(坪井良平著)より

(注) 銘文中、異体字などは新漢字になおした。

指定文化財種別件数 昭和53年5月1日現在

種別	指定別				合計
	国	県	市		
有形文化財	建造物	1	3	1	5
	絵画	0	5	1	6
	彫刻	0	3	3	6
	工芸品	0	8	6	14
	書跡、典籍、古文書	0	0	0	0
	考古資料	0	1	1	2
無形文化財	歴史資料	0	0	0	0
	民俗文化財	0	0	0	0
民俗文化財	有形	0	10	3	13
	無形	0	9	4	13
	記念物	0	2	8	10
	史跡	0	0	0	0
	名勝	0	0	0	0
記念物	天然記念物	3	4	0	7
	合計	4	45	27	76

北九州市における豊前岩戸神楽

豊前岩戸神楽

豊前岩戸神楽の源流は、出雲流神楽の影響を受けて成立した高千穂神楽と推考される。

豊前地方に入った神楽は、更に各郡に広がり、それぞれの神楽座によって演目が取捨選択され、あるいは「湯立神楽」の如き伊勢流神楽を取り入れたり、散楽的な神楽系の演目を加えるなどして成立した。したがって各郡によって演目、芸態に多少変化が見られる。これらの神楽はいずれも藩政時代は神職によって行われたが、(社家神楽という)明治維新後、諸事情

により殆んど廃絶してしまった。明治新体制の定着した明治十年ごろから、廃絶を惜しむ村人達が神官の指導を受けて神楽を復活させた。いち早く復活したのが築城郡の赤幡神楽で、ついで京都郡として企救郡等があとに続いたようである。したがって企救郡内の諸神楽の芸態が、築城郡系が京都郡系であるのは、前記理由によるものと考えられる。両者の芸態の特徴は、築城郡系が総体的に動きが早く所作が荒々しいのに対し、京都郡系は動きが少なく流麗な点である。市内に現存する三つの神楽のうち横代、合馬の両神楽は京都郡系、大積神楽は築城郡系である。